

日にあらたに



札幌市立日章中学校
学校便り 第 503 号
令和 8 年 3 月 13 日発行
TEL831-6196 FAX831-2754
<https://www.nissho-j.sapporo-c.ed.jp>

卒業証書授与式 学校長式辞

札幌市立日章中学校長

尾崎 英弥

開校以来、65年という月日を経て、弥生三月、本校にも、旅立ちと、別れの時が巡って参りました。常に温かな眼差しで、子ども達を見守っていただいた、地域の方々、そして保護者の方に支えられ今を迎えようとしています。親愛なる、卒業生諸君が、思い出を胸に刻み、新しい環境へと、歩みを進める門出となるのが、本日の卒業証書授与式であります。ご来賓の皆様と、卒業生保護者の皆様をお迎えして、本日、卒業生154名の門出をお祝いできますことは、日頃よりの皆様のご支援の賜物とまずもって教職員一同、心より感謝申し上げます。先ほど卒業生一人一人に証書を授与いたしました。照れや緊張、初々しい若者の瞳の奥には希望に満ちた光があり、私の目の前では、どの子もそれぞれの輝きを放っておりました。私は皆さんと同じく、3年前この日章中学校に校長として赴任し野外学習、修学旅行と一緒にさせていただき、月日の早さと3年間の成長を肌で感じておりました。皆さんと過ごした日々、行事で見せてくれた笑顔、困難に立ち向かう真剣な眼差し、それらすべてが私の管理職人生最後を飾る宝物となりました。

本日、立派に胸を張っているお子様の背中をご覧になり、保護者の皆様の胸中にはどのような思いが去来しているのでしょうか。初めてその手を引いて校門をくぐった小学校入学式。思うようにいかない姿に、本人以上に心を痛めた夜のこと。あるいは、反抗的な態度で戸惑い、ただ黙って食事を作り続けた日々もあったかもしれません。今日、お子様はひとつの区切りを迎え、皆様の手を少し離れ新しい世界へと漕ぎ出していきます。親として、頼もしさを感じる反面、どこか遠くへ行ってしまうような、一抹の寂しさを感じておられる方もいらっしゃることでしょう。しかし、どうぞ自信をもって送り出してください。皆様のこれまで注いできた無数の言葉、そして言葉にはならなかった祈りは、すべてお子様の心に深く根を張り、これから出会う困難を乗り越えるために「見えない力」となって、彼らを支えていくはずです。お子様の成長を一番近くで支えてくれた保護者の皆様に心から敬意とお祝いを申し上げます。

卒業生の皆さんの中には、学校に足が向かない日があったり、教室に入ることが難しく、暗いトンネルを歩むような日々を過ごしていた人もいるかもしれません。周りの足音ばかりが大きく聞こえ、焦りや不安に押しつぶれそうなこともあったことでしょう。しかし、今日、あなたはここにいます。自分の足で、あるいは誰かの支えを借りながらこの節目に辿りつきました。私はこの歩みを心から称えたいと思います。毎日登校することだけが学びではありません。立ち止まり、悩み、自分と向き合った時間は、人の痛みがわかる優しさ、自分なりの生き方を探す強さへと、必ず変わっていきます。目的地に辿りつく道は、決して一つではありません。遠回りをしたからこそ見える景色があります。自分自身の歩幅で歩んできた自分を、どうか今日は、褒めてあげてください。

お子様が学校に足を向けられない時期、保護者の皆様がどれだけ葛藤を抱え、どれほど祈るような思いを日々過ごしてこられたか、推察致します。「どうしてあげればいいのか」正解の無い問いに自問自答し、出口の無い暗闇の中で、それぞれのお子様を信じ、その手を離さず、今日まで伴走してこられました。今日こうしてお子様卒業を迎えられたのは、皆様が絶やすことなくもし続けた家庭という名の温かな光があったからです。皆さんの忍耐と深い愛情に心から敬意を表します。保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠にありがとうございます。保護者の皆様、そしてお孫さんの晴れの姿を見られたおじちゃん、おばあちゃんもご列席いただき、式場でのお子様の立派な姿をご覧になり、お喜びもひとしおのことと推察いたします。

この子達が独り立ちするようになるまでには、まだまだ時間がかかります。いくつになっても子は子と申します。時を隔て、我が子が立派な家庭を築く姿をご覧になった時が、子育ての人区切りかと考えます。三年間のご支援ご協力、誠にありがとうございました。

結びになりますが、ご来賓の皆様、ご多忙の中、本日のご臨席、誠にありがとうございます。本校はこれからも中学生の育成に全力で挑み、信頼と感動をお届けできる存在で有り続けることをお誓いいたします。また、大変恐縮でございますが、今後とも変わらぬご愛顧とご支援を頂戴できますようお願い申し上げます。式辞の言葉とさせていただきます。

在校生代表 お祝いの言葉

在校生代表

肌を刺すような冷たい外気が和らぎ、吹く風にも春の訪れを感じるようになりました。今日この佳き日、日章中学校を旅立たれる3年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して、心よりお祝い申し上げます。先輩方と初めて会ってから約2年が経ち、それは長かったようで、短かった気がします。ゆっくりと、瞳を閉じると、先輩方と過ごした日々を鮮明に思い出します。

合唱コンクールでは、放課後、どこにいても3年生の歌声が聞こえてきて、その声を聞くたびに私達は、3年生を見習ってより頑張らないと、と何度も励まされました。本番の歌声は、練習の時よりも更に重みがあり、また、金賞を取るぞ、という覚悟から生まれる一体感、合唱の厚みは、どれだけの人を圧倒させたことでしょうか。最高学年という名にふさわしい3年生の姿を見て、私達は、憧れを持つとともに、次は自分たちが圧倒させる側にならないと、と決意できました。合唱コン以外にも積極的に取り組む姿を何回も見ることができました。その一つひとつの行動が、まさに自治的な活動なのだと思います。自らが率先して活動に取り組み、後輩を先導する姿、とても格好良かったです。

1つしか年が離れていないはずなのに、それ以上に大人に見える先輩方。常に笑顔で順風満帆な学校生活を送っているように見える先輩方。なぜそう見えるのか、答えを出せずにいましたが、その理由がわかった気がするのは、先日学校づくりプロジェクトでした。学プロ最後の生徒会長の話で、失敗をした私。はなし終えた後は、学級に戻りたくないと思うほどでした。そんな私に前を向かせてくれたのは、先輩方でした。「今日の学プロ良かったよ、頑張ってたね」と声をかけてくれる先輩。何も言わない、けど「頑張れ」、と活を入れてくれる先輩。先輩方の背中が大きく見えるのは、優しさからだわかりました。過去に失敗や挫折があったからこそ、皆さんはそれだけの優しさをもっているのでしょうか。

勉強面では、受験の中であっても、互いに教え合い、互いに笑い合い、信頼できる友達とともに夢を掴み取ろうとする姿がありました。その真剣な姿から、夢の実現の大変さを感じ、それに向けた努力の大切さを学びました。この先、今まで経験したことのない大きな壁に直面することなどがあるかもしれません。しかし先輩方には、日章中学校で培った「力」があり、自分が辿ってきた道にしかない「経験」があります。周りを見れば、信じていることのできる「友達」がいて、自分を見続けてくれた「保護者」がいます。そんな先輩方はどんな壁でも乗り越えられるはずで、持ち前の優しさを大切にしながら、笑顔で、未来を切り拓いていてください。夢へ向かって挑戦し続け、充実した毎日を送っていてください。これまで、先輩方に引っ張られて、成長することができました。だから、次は私達が、日章中学校を引っ張っていけるよう、誰かのためになれるよう、頑張ります。先輩方の進む道が、先輩方にとってより良い道であることを、在校生一同、願っています。

いよいよお別れの時がやってまいりました。最後になりますが、皆様のご健康と、さらなるご発展を心の底から祈念して、そして、ありがとう、さようなら、を付け加えて、送辞の言葉とさせていただきます。

卒業生代表 慶びの言葉

卒業生代表

暖かい陽の光が降り注ぎ、雪解けの水が、春を待ち焦がれる草花に新たな命を与える季節となりました。本日は厳粛な中にも心温まる卒業証書授与式を挙げて頂き、誠にありがとうございます。また、お忙しい中ご臨席いただきました来賓の皆様、保護者の皆様、先生方、在校生の皆さん、卒業生一同心より御礼申し上げます。

三年間は本当に早いもので、大きかった制服もすっかり小さくなり、歩きなれた通学路も、明日からは通わなくなると思うと少し寂しく感じます。私たちが日章中学校で過ごした時間はとても刺激的で、多くのことを学んだ日々でした。そして、たくさんの行事で私たちは絆を一層強くし、友人や先生方、先輩後輩との関わりが私たちを成長させてくれました。行事といえば学校祭。特に今年学校祭では、希望した部門になれなかったクラスもありましたがいざ始めてみると全校生徒が周りの仲間へ意識を広げ、協力し合い助け合う。まさに学校祭テーマであった「ME ヒーロー」が日章中学校に溢れかえるきっかけとなった行事でした。そして、合唱コンクールではさらに多くの「ME ヒーロー」が生まれました。しかし、私たちを本当に成長させてくれたのは、学校行事そのものではありません。その時間を共に過ごしてきた「人」の存在です。今この場にいる皆さん一人一人が、私たちの三年間を特別なものにしてくれました。

まずは共に過ごした最高の仲間たちへ。本当に価値観のズレや衝突もたくさんあったし、くだらないことではしゃぐこともたくさんあったけど、思い返してみるとそれが今の私たち自身を作っているんじゃないかな。だから「あの時はごめんね」の前に「ありがとう」。何気ない日常生活も、みんなと励まし合うことで成長できた、私の中で忘れられない幸せな時間でした。気づいたら話しをするようになった人も、いつのまにか関わりが減ってしまった人もいるけれど、ここで出会えたみんなのことが大好きです。

次に、これからも日章中学校を作っていく在校生の皆さん。私たちは「憧れの最高学年」そんな存在になれていたのでしょうか。頼りない部分があっても、様々な場面で皆さんが私達を信じ、一生懸命ついてきてくれたことに感謝しています。学校をより良いものにしていく日々の中で皆さんと共に歩めてとても楽しかったです。自分を信じて、仲間を信じて、これからも新しい日章中学校を創っていきましょう。

そして先生方。毎日のように「先生！」と声をかけていた私たちですが、それは自分の頑張りを先生方に「一番」に伝えたいと思ったからです。喜びも悲しみも「一番」に分かち合いたかったからです。先生方の笑顔や応援は私たちが大きく進んでいく力になりました。「知識」を超えて「人として忘れてはいけない姿勢や心構え」をたくさん教わりました。まだまだ未完成な部分が多い私たちですが、自慢の教え子になれたのでしょうか。先生方の教えを胸に、私達らしくまた一歩、前へ進んでいきます。本当にありがとうございました。

最後に、私たちを最も近くで支えてくれた家族へ。「成長したよ。もう一人でも大丈夫だよ」そう言いたいけれど、わがままを言ったり、素直になれなかったり私たちはまだまだ幼くて、その分たくさん世話を焼かせてしまったかもしれません。本当に助けてもらってばかりでした。中学校を卒業する今、しっかり伝えたいです。これまで育ててくれてありがとう。そして、もう少しの間だけ、そばで私達のことを見守っていてほしい。それだけで私たちは安心できるから。

私たちは本日をもって、日章中学校を卒業し未来に向けての一歩を踏み出します。今日を境にこの学び舎から離れることは寂しいですが、多くの思い出や学び、そして誇りを人生の糧とし、力強く、堂々と、勇ましく歩いていきます。改めて、三年間本当にありがとうございました。伝えたい言葉は尽きませんが、日章中学校の益々のご発展と、ご臨席の皆様のご健勝、ご多幸を心より祈念いたしまして、卒業生代表の慶びの言葉と致します。